

アジア人材育成基金で留学中

広くアジアに目を向け、人材育成を図って
いこうと、昨年4月に
「アジア人材育成基
金を創設した東京都。
この基金を活用したア
ジアからの留学生は現
在13名まで増えたが、
その第1号がこの人。
首都大学東京白野キ
ャンパスでは、航空機
用先進複合材構造に関
する研究分野で留学生
を募集。シンガポール
国立大学修士課程で複
合材の解析を研究した
後、企業に勤めていた

ひと

大学院工学
科2年
大イム
京システム
東デシ
学宇宙
都航空
博士
タン クウエック ズ
TAN Kwek Tzeさん



タンさんに、当時の指
導教官から連絡があっ
たのだという。

「海外のドクターコ

ースで研究を続けたい
と思っていて、非常に

条件のいい話だったの

で、すぐに決断しまし

た。両親も妻も大賛

成で、昨年10月に妻と

娘を伴って来日した。
「複合材は航空機だ
けでなく、自動車や医
療用ロボットなど、様
々なものに応用可能で
す」と、指導の渡辺直
行教授。今後、大きな
波及効果が期待される
有望分野だ。研究でア
メリカが断然優位を保
つた時代から、今は日
本やEUが肉薄してい
るのだという。

複合材は外部からの
衝撃に弱いとされ、そ
れが課題だが、タンさ
んは現在、宇宙航空研
究開発機構(JAXA)
にも週半分は出向き、
衝撃を受けた後の強度
を調べる実験に取り組
んでいる。わずか来日
1年余りで、国際学会
で2度発表し、海外専
門誌2誌にも論文を発
表と、大きな研究成果
を上げている。

アジアが力を合わせ
て航空機を開発・製造
することを目指し、ア
ジア全体の航空機関連
技術の向上を図ること
も、東京都が行う人材
育成の狙いの一つだ。

「これからはアメリ
カよりもアジアが重要
になってくる。アジア
が一つになれるように
力を尽くしたい」と力
強く語るタンさん。

第1号というアレッ
シャーには負けずに、
「一番良いモデルとし
て見習ってもらえるよ
うな基準になりたい」
と意気軒昂だ。

シンガポール生まれ。
06年同国立大修士
課程修了。現在、日本
語の授業も週1回受け
ている。娘と遊ぶのが
趣味と、家族は留学の
支えだ。30歳。

初めて来日したのは
3年前。ロマンチック
だとシンガポールでも
人気の北海道を新婚旅
行で訪れた。寒かった
けど美しいところで、
また行きたい」と優し
く笑った。(門)